各支部代表より発言。

港工場
小林委員長

・2年前の専門委員会で合意した設備管理職員の新規採用を、今回の専門委員会で実現すること。
・委託提案時の「民間の力も借りて」や「財政効果」というのであれば、港工場の委託先は天下り先の東京エコサービスに特定することなく一般競争入札で決定すること。
・委託契約に委託工場で働く労働者の最低賃金等や労働条件についても明記し、安心して働ける労働環境とすること。

《以下　口頭説明》

千歳支部
堀口副委員長

運転業務等委託が発表されました。「経営改革プラン2009」により22年度は、2工場委託のうち、その一つに千歳清掃工場の名が上げられました。工場職員はとても残念であり強い憤りを感じています。

何故これまでの経過の答えが、サービスの水準ダウンと出されているのにも拘らず、これ以上の委託をやめようとしないのか。

公共サービスの委託によるコストの引き下げは、生計も成り立たない程の委託会社社員の低賃金化、雇用の不安定化、そして安全性は薄れ危険が増し、公共サービスの責務は全うできません。

公共サービスを向上するには、同一労働・同一賃金原則を創らなくてはいけません。その為には、直営で操業する他ありません。

矛盾して言える事は、育成訓練センターで運転管理を学んでも実際に働く現場では運転係の委託化が進み職場がどんどん無くなっている実態です。

これでは学んだ職務を活かすことが出来ません。

人員削減による経費削減以外にも無駄を省く方法はあると思います。

以前聞いた話ですが、大田工場内でガスタービンを作り発電するプラントのその燃料は都市ガスで、その維持費は年間3億円とも言われています。ごみとはなんの関係のない発電プラントです。

この様な無駄を止め、例えば清掃工場を一つ造るのに莫大な費用が掛かり、その維持費は計り知れません。

21工場在るうちの4工場を廃工にして、残りの17工場を全て直営で操業する等の方法もあると思います。

もう天下りを促進する委託計画は撤回し、この事を区長会に対して是非申し入れ、見直す一歩を決意、決定してください。

当工場支部は、度重なる委託の無駄に対し断固反対し、白紙撤回する事を一致団結して求めます。

中央工場
青木書記長

アウトソーシングに断固反対します。

東京都時代には清掃工場を知り尽くした技術屋集団、プラントメーカーに物言える技術職員が大勢いました。

今はどうでしょうか？

区移管で大多数が都に戻り、また、団塊世代の職員が次々に退職し、区からの派遣職員と新規採用の技術職が増え、残された都時代からの技術職員と設備管理職員の負担は大変なものがあります。

清掃工場のことが分かり始めたころには区に戻ってしまう。

新規採用の職員は仕事を覚える運転係がない！

委託管理を行政職が行うとしているが、新規採用の職員が委託工場に配属された場合、実際に監督業務ができるのか？

運転係という実践で経験を積まずにどうして委託管理ができるのか？委託業者の言いなりになってしまうのではないか？

様々な現場作業を担っている設備管理職員。

現場を知り尽くしているからこそ、工場の運営が大きな事故もなく行われている。その現場を、運転係で工場操業のノウハウを覚え理解しているからこそ、故障も未然に防ぐことができる。

工場全体の仕事を覚え、経験を積み、やっと一人前の設備管理職員になる。

設備管理が整備係のみにしかいないとなると、プラント全体の構成や、機械、機器類がどのような役割を果たしているのか、どのような動作をするのかなど教わる場所がない。また、補修時に機器の発停を委託業者に指示できるのか？

整備係しかなくなると職場内での異動も出来なくなり、悪い意味での慣れが出て事故につながる可能性もある。

モチベーションの低下も起こる。

当工場も整備係の業務委託が入っており、5年目になりますが、3人の常駐のところ毎年、人が入れ替わり、年度途中にも入れ替わりがあり、すでに述べ14名となっています。

これでは仕事に習熟できるようにならない事はもちろん、職場に対する愛着も生じないのは当然であります。

その結果、事故や故障の多発に結び付きかねません。

以上の弊害が起きうる委託には断固反対し、撤回を求めます。

品川工場
初鹿委員長

先ず初めに、先日、品川清掃工場の灰溶融委託職員の方が、灰コンベヤに巻き込まれて亡くなるという、非常に痛ましい重大事故が発生してしまった。その犠牲となってしまった方は、清掃工場で働きはじめて、11ヶ月の派遣職員の方で、しかも、将来ある若い現業労働者であった。

我々、品川工場支部職員は、深い哀悼の意を表するとともに、二度とこの様な痛ましい重大事故を発生させてはならないと、固く心に誓うものである。今回の重大事故発生の根底には、いま社会的な問題にもなっている、何かあると真っ先に派遣切りありき、と言われ仕事を失う恐れのある派遣職員という一番弱い立場にある労働者が、犠牲となる結果になってしまった重大事故である。

これまで、原因として色々取り沙汰されているが、本質的には派遣職員という弱い立場の者は、言いたいことがあっても何も言うことが出来ず、危険な仕事も黙ってやらざるを得ないことは、誰が見ても明白である。

特に、清掃工場のように危険な作業の多い職場には、安易な業務委託というものが、如何に安全を無視したものかを、図らずも証明する結果となってしまった。

我々は勿論、委託事業者すべてを否定するものではない。しかし、派遣職員や下請け・孫請けの会社が、安全教育も徹底せず、指揮命令系統も明確ではなくなる恐れのある制度の下では、清掃工場という多くの危険が潜在している職場には業務委託というものは適さない。そして、常に、弱い立場の現業労働者を犠牲にしてしまう恐れがある。

一組当局はこれまでも、我々労働者が強く反対しているにも拘らず、多くの清掃工場を強行に委託してきた。然るに、すでに委託された清掃工場をみると、我々が危惧していたとおり、多数の事故や故障が連日のように発生している。

このように、多くの危険が潜在する清掃工場では、経験豊富なベテラン職員でさえも、ひとつひとつの作業に細心の注意を払い、慎重にあたらなければ重大事故や故障に繋がってしまう恐れがある。

特に、清掃一組の清掃工場のように、住宅に接しているような区民に身近な清掃工場の場合、その被害が区民生活にまで及ぶ可能性を秘めている。

一組当局は、直ちに、これまでの委託ありきの考え方を改め、区民や清掃工場で働く労働者の安全を最優先に考えるべきである。

また、一組当局自身も、技能・技術の継承が一組の危急の課題の一つであると認め、清掃技術訓練センターを立ち上げたばかりではないか。

然るに、その一方では、いまだに委託をすれば人件費を抑制できるというような安易な考えに走り、清掃工場のさらなる委託化を推し進めようとしている。

しかし、コスト的に見ても決して削減になっていないことは明白な事実である。

さらに、このままでは、これまで我々が築き上げてきた区民との信頼関係も損ないかねない。

一組当局は、今回の重大事故を真摯に受け止め反省しているのであれば、直ちに委託提案を取り下げるべきである。

太田工場
細貝委員長

第78回東京清掃労働組合定期大会開催

9月29日、お茶の水駅近くにある全電通会館ホールにて、清掃本部定期大会が開催された。

大会では、西川執行委員長、新たに、吉田副委員長、纐纈（こうけつ）副委員長、染書記長の布陣で、難局を乗り切ることになった。

区別の交渉、各支部に降りかかる問題点、人員要求、予算要求、一組のアウトソーシング対策、問題が山積している中で、一組総支部から、世田谷工場支部から、山崎組織部長、一組選出執行委員に、品川工場支部の駒井執行委員、太田工場から細貝一組現業部長が就任した。

退任は、一組本庁の大島書記長、財政部長の山﨑精一財政部長、中央工場支部の岡沢委員長、光が丘工場支部の箱田支部委員長、豊島工場支部の武藤一組副委員長である。いずれにしても、組合業務の遂行は簡単なことではない。

長い間の取り組みや行動、闘争は、今後の組合活動の大きな発展につながることが明らかである、本当にご苦労様と感謝したい。

大会で確認 闘うスローガン

大会で決議された項目、議題は、各支部室に保管されている。熟読していただき、本部、支部が目標とする闘争方針、取り組みを把握することが重要である。

私たちは、常に組合運動に関心を持ち、職場を守る団結を強化しよう。

清掃事業関係統一交渉を確固たるものとし、「区・一組・都」を貫く単一労働組合としての組織を、磐石なものとし、団結を強化しよう！

意図的な公務員攻撃や現業系職員の給与水準の引き下げを許さず、09賃金確定闘争を都労連、特区連、23区職労と連帯し、清掃労働者の労働条件の向上に向けて組織の総力を挙げて闘い抜こう！

退職不補充・定数削減・民間委託攻撃に反対し、直営体制の必要性・優位性を強化し、質の高い住民サービスを向上させよう！

「安全・権利闘争」を通年闘争と位置づけ、安全作業の確立、公務災害の一掃、公務災害認定闘争を職場から強化しよう！

家庭庭ごみの有料化に反対し、住民と共同の取り組みで廃プラスチックの安易なサーマルリサイクルを許さず、環境保全、資源循環型清掃事業を確立しよう！

組合活動への不当な介入に屈せず、組織・財政基盤を強固なものとし、職場から反撃しよう！

差別を生み出す社会や職場環境の改善を求め、職場・地域からどんな差別も許さない取り組みを強化しよう！

自治労産別強化・全労協運動を推進し、すべての闘う仲間と連帯し、階級的労働運動を推進しよう！

不当解雇された1047名の納得いく解決に向け、4者4団体の共同行動を基軸に国鉄闘争の勝利に向け闘おう！

平和憲法の改悪を許さず、自衛隊の海外派兵に反対し、戦争・テロの即時中止を求め、あらゆる政治反動を阻止しよう！